名古屋芸大グループ通信

34
January
2016

Feature

制作の最前線③ 想いを形にする
工房を訪ねて ジュエリー工房

Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG
自分次第でどうにだってなる
服部莉佳

NUA-Student
音楽学部 音楽療法コース 3年
梶田奈月

News/Topics
ニュース&トピックス

大学総合
■ "2015芸大祭"が行われました

音楽学部
■ 新任教員コンサートが開催されました
■ 室内楽の夕べ2015が開演されました
■ 第38回 定期演奏会が行われました

人間発達学部
■ 浜谷直人氏
「『発達障がい児など困難をかかえた子どもの保育』
－自己肯定感と仲間意識の視点から－」が開催されました
■ 「就職支援セミナーI」が行われました

美術学部・デザイン学部
■ デザイン学部特別客員教授ポール・プリーストマン氏による
デザインレクチャーが開催されました
■ 現代アートとデザインの展覧会
常滑フィールド・トリップ2015が行われました
■ カーデザイナー内田盾男氏による
カーデザインコース新設記念講演会が行われました
■ 旧加藤邸アートプロジェクト2015
『記憶の庭で遊ぶ』が開催されました

名古屋芸大グループ校特集
■ 名古屋芸術大学保育専門学校

コラムNUA
4学部を「つなぐ」絵本読み聞かせ
美術学部教養部会准教授　早川 知江

Master Artist
マスター アーティスト
見る力
デザイン学部 教授　久野利博

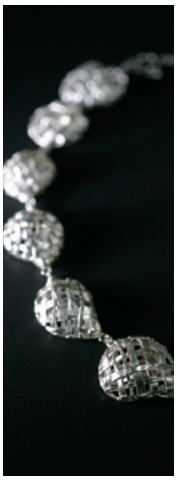
Information
インフォメーション
■ 出版
■ 名古屋芸術大学2016年度入試日程
■ 2015年度音楽学部演奏会スケジュール
■ 美術学部・デザイン学部卒業制作展・記念講演会
大学院美術研究科・デザイン研究科修了制作展

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学グループ
http://www.nua.ac.jp

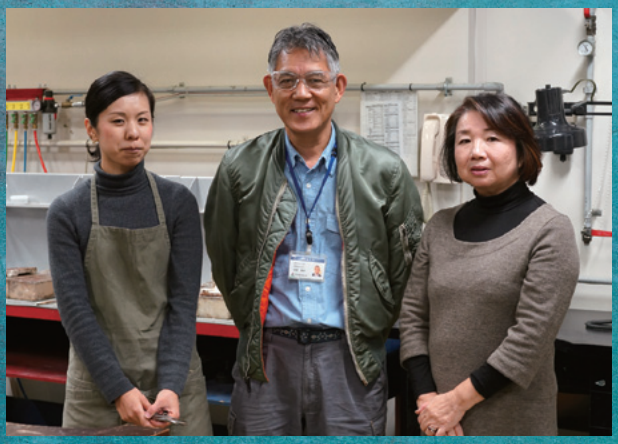
■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科　美術研究科　デザイン研究科　人間発達学研究科
学部：音楽学部　美術学部　デザイン学部　人間発達学部
■名古屋芸術大学保育専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園　■たきこ幼児園
■名古屋音楽学校（名古屋芸術大学 栄 サテライト）

Feature

制作の最前線③ 想いを形にする 工房を訪ねて ジュエリー工房



本学には、木、金属、ガラスなど、扱う素材に応じた“工房”があります。工房は、必要なときにいつでも利用することができ、自由に制作に励むことができます。今回の特集では「ジュエリー工房」を紹介します。ジュエリー工房で扱う素材は、銀や銅などメタルの中でも貴金属。鉄を中心とした金属全般を扱うメタル工房よりもさらに専門性が高そうな気がします。しかし、シルバーを使ったジュエリー作りを趣味にする人も多く、基本的な作業は難しいものではありません。ジュエリーコース２年生の授業と、生涯学習の授業をちょっと覗いてみましょう。



右 非常勤講師／寺本眞知子
1976年　国際ジュエリーアート展入選
91~94年　高岡クラフト展入選
1994年　PLATINUM DESIGN OF THE YEAR グランプリ
2006年　名古屋市技能職団体連合会 優秀技能者 表彰
（社）日本ジュエリーデザイナー協会会員

中 メタル・ジュエリー工房 技術職員／加藤貴彦

左 非常勤講師／桑山明美
2008年　日本ジュエリーアート展入選
2009年　BRITISH ART MEDAL SOCIETY STUDENT MEDAL PROJECT 2009 ベストゲスト賞
2010年　日本クラフト展入選

ジュエリー制作の技法

ジュエリーを制作する場合、技法には大きく分けて「彫金」「鍛金」「鋳金」の三つがあります。「彫金」は、たがねやヤスリを使い、形を整え模様を入れる技術です。「鍛金」は、金づちなどで叩いて成形する技術、「鋳金」は、金属を溶かし型に流し込んで作品を作る鋳造技術です。ジュエリー工房では、これらの作業を行うための様々な機器が備えられています。どの機器も危険を伴うものですが、ルールを守り正しい使い方をすれば安全に使うことができます。

溶接作業

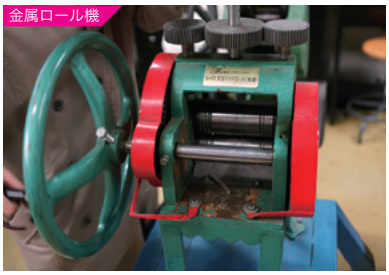
ガスバーナー

銀ロー付け、ガス溶接などを行う。小さなものであれば、素材を溶かして型に流し込み線材に成形することもできる

削る作業

ハンドグラインダー
ヤスリ、水性紙ヤスリ等
ヤスリには様々な種類とサイズがある。素材の種類、形状に合わせて使い分ける

曲げる作業

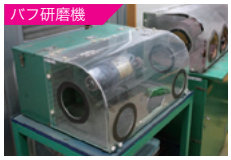

金属ロール機

木ハンマー、万力、ペンチ類
金属ロール機は、銀地金を角線、丸線、平板等に加工することができる

磨く作業

磁器バレル研磨機

精密ハンドピースグラインダー、サンドブラスター等を使い素材を磨きツヤを出す


バフ研磨機

超音波洗浄機

その他の機材

ミニボール盤

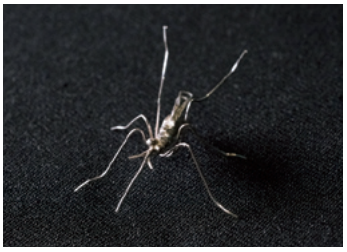
ワックス型制作器

真空吸引加圧鋳造機

吸引鋳造機

授業風景「ジュエリー1」

メタル&ジュエリーデザインコース、2年生の授業にお邪魔しました。デザイン学部の場合、1年のファンデーションでデザインを総合的に学び、2年になって専門コースを選択します。そのため2年の授業では、もっとも基本的なこと、道具（糸のこ・ヤスリ・ロール・バーナー）などの使い方、金属の性質と加工方法を学びます。行われていた授業は、半期で銅板透かし（糸のこを使って地金に描いた模様を切りそこに模様を加える）、すり出しリング（シルバーの角棒を曲げて形を作り、ヤスリで模様をすり出す）、ロストワックス技法によるリング制作（ワックス（ロウ素材）で指輪の原型を作り鋳造する）の三つの課題に取り組みます。



銀の角棒を作る

通常は素材として角棒を入手しますが、基本的なことを知るために角棒を作るところから実技で行います。

小皿に素材を入れてバーナーで焙って溶かす

溶けた金属を型に流し込む

叩いて形を整える

金属ロール機を通して角棒の完成。これをさらにリングに加工していく

自由度の高い授業

授業は10名程度の少人数で行われ、個々に講師に質問しながら進みます。取り組んでいる課題の進捗状況は各自まちまちで、それぞれに作業します。課題としては三つの技法で制作することになっていますが、作りたいもののイメージが明確にある場合、講師と相談しながら、多少、発展した内容であってもイメージを優先して作っていきます。講師に作りたいもののイメージを伝え、アドバイスを受けながら作っていく授業のやり方は少人数ならではのもの。気軽に相談できる自由な雰囲気がとても印象的です。

丁寧に仕上げれば綺麗な作品に

金属は叩いたり曲げたりすると硬くなり（加工硬化：結晶内に歪みが生じ硬くなる）、熱を加えると軟らかくなります（焼きなまし：結晶の歪みを取り綺麗に整列し直し軟らかくする）。焼きなましをすると、金属は空気と反応し、酸化や窒化して化合物を作り表面に変色した被膜を作ります。加工する時にその被膜を内部に取り込まないように落とす作業が必要になります。「加工」-「焼きなまし」-「酸洗い」-「加工」-「焼きなまし」-「酸洗い」……と、サイクルを繰り返し、イメージ通りの形を作っていきます。丁寧にやればやるほど金属の表面は綺麗に仕上がるため、自ずと自分の作品に集中することになります。

銅板透かしでペンダントを作る。銅板に下絵を描き、糸のこで切り抜いていく。糸のこの確度や力の入れ方など、丁寧に扱わないと糸のこがちぎれてしまう。細かいところやカーブの付いているところは特に慎重に

切り抜いたあとは、ヤスリをかけて綺麗にする。表面に模様を付ける場合、金槌や木槌で軽く叩く。使用する道具や台によって模様は変化する。たがねを使って模様を彫り込んでいくこともできる

先生、教えて！ ジュエリーの魅力ってなんですか？

非常勤講師
寺本眞知子

ジュエリー工房には良き伝統がある！？

－ジュエリー工房も誰が使ってもいい共通工房ですよね。利用には何か資格やルールはありますか？

現状ではさほど多くの人数の学生が使っているわけでもないので、わりと自由に利用できるようになっています。授業を見ていただいたように二年生の授業ですが周りに四年生が卒業制作を作りに来たりしています。その先輩方から機械の使い方を教わったり聞いてみたりしながらやっています。私がこの大学に来て教えるようになる以前から先輩が後輩に教えるという伝統が続いているようで、現在もそれが引き継がれています。先輩が作っている作品を見ながら、でも授業を受けている二年生が優先的に機械を使って、そんなふうになっています。四年生の卒業制作やこれまでの作品を見ることで授業を受けている二年生への刺激になります。勉強になるし良いことだなと思います。自分がこれからどんな作品を作っていいけるかイメージしやすいと思います。

－少人数の授業の良さをとても感じました。

今年の二年生は11人なんですが、自由に使えるし目が届きます。二年生では課題が三つありますが、どういう順番で作ってもいいですし、あくまで課題に準ずるのですが自分で作りたいものがあれば多少課題からずれていってしまってもそちらを優先してできるだけ対応するようにしています。課題じゃないものを作りたいという意思もできるだけ尊重してあげようかなと思っています。

“作りたい”を尊重

－自由に作りたいものを選んでかまわないんですか？

駄目と言ったら、止まっちゃうんじゃないかなというような気がしています。技術は重要ですが、技術を身に付けるだけではなくそれ以上のことやその先の考える部分を身に付けて欲しいので、作りたいものを優先してあげないと、と考えています。そのため緩やかに、学生一人一人に対応してそれぞれの問題に取り組んでいくというような形を採っています。職人を育てる専門学校ではなく、芸術大学として自分が発想したものを形にするための技術、それについては教えますというスタンスですね。必要になったらその時に技術を覚えればいいという考え方でしょうか。根本的な発想を大事にしています。

－学生の作品を見てどのような感想ですか？

ジュエリーというものは、オブジェではなく、あくまでも身に付けるものなので、そのため技術は絶対に必要です。また、商品としての側面もあるので職業になった場合には金額であるとかさまざまな制約を受けます。だた、学生のうちは、余計なことは考えずに思ったまま、とことん表現したいものに向かっていけばいいのではないかと思っています。何を見て、何を感じて、何を作るか、その筋力を学生の間に十分に養ってほしいと思います。そういう点で、私では考えつかないようなものもありますよ。私自身、気持ちをツンツンとつつかれるような刺激を受けています。学生たちと一緒にやっていないとなかなか味わえない気持ちですね（笑）。

－ジュエリー工房には、独特のおおらかな雰囲気がありますね。

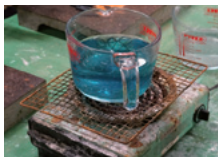
やりたいことをやっているという純度が高いからか、作りたいという気持ちが皆強いからなんでしょうかね（笑）。

授業風景／生涯学習 「誰でもできる、オリジナルジュエリー講座」

全9回の講座で、2年生の授業と同じように、すり出しシルバーリング制作、透かし技法でアクセサリー制作、スタンプワーク制作（鉄の刻印を制作し真鍮と自作の刻印でアクセサリーを制作）と三つの作品を制作します。取材日は最終回。時間めいっぱいまでかかり作品を仕上げ、修了証を受け取りました。授業のやり方も学生の授業と同じで、各自の課題を講師と相談しながら進めていきます。“作りたい”が強く、少々課題から逸脱してしまうような相談でも快く対応し、テキパキと指示を出す講師の姿が頼もしく映りました。和やかな雰囲気の中にも、熱心に取り組んでいる受講生たちの様子が印象的でした。

ブレスレットを曲げているところ。木の台にあてて適度の大きさになるように曲げていく

銅や真鍮は、入浴剤の六一〇ハップにつけ込むと硫黄と反応して黒い被膜ができ、落ち着いた風合いに

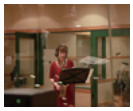


焼きなましをすると表面に酸化膜ができるため、シルバーなどは希硫酸で酸洗いし酸化膜を落とす。手順を守って丁寧に作業することが綺麗に仕上げるコツ

ハンドドリルを使って2種類の金属をねじる。綺麗な縄状になった。このあと曲げてコンビのリングに

受講した方たちの作品

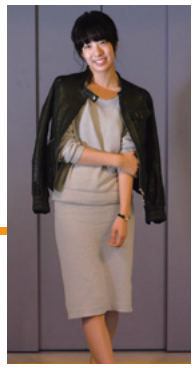
Close up!
進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-ism



リーダーバンド「RH6」は名古屋市内ライブハウスを中心に活動中。音を聴きたい、本人に会いたいというならぜひライブに。
http://ameblo.jp/m238182/

大学という場所は、自分を持ち上げてくれるわけじゃなく、サポートしてくれて横のつながりはたくさんつくってくれる場所だと思います。あくまでも自分次第です。横のつながりを作ってくれたことには本当に感謝してます

Find us on Facebook



Vol.69
NUA-OG
服部莉佳
（はっとり　りか）
サックスプレイヤー

1990年　愛知県生まれ
2009年　音楽文化創造学科入学
2010年　第41回 山野ビッグバンド・ジャズコンテスト
　　ベストランクアップ賞受賞（Jampa Swing Orchestra）
2011年　東海ビッグバンドコンテスト2011　優秀ソリスト賞受賞
2013年　音楽文化創造学科ジャズ・ポップスコース卒業
2013年～複数のBig Band・コンボバンドに所属し
　　サックスプレイヤーとして活動

幼少期からクラシックピアノを習い、高校でビッグバンドに所属、ジャズとサックスに出会い音楽の道を志す。本学で、野々田万照氏に師事。在学中はJampa Swing Orchestraに所属しコンサートマスターを務める。卒業後はサックスプレイヤーとして活動。複数のBig Band・コンボバンドに所属し、作・編曲家、さらには講師としても活躍。自身のリーダーバンド「RH6（RHセクステット）」でも、名古屋を中心に活動している。

本学学生時代のライブ。現在もフロントマンとしてMCを担当することもしばしば。なぜか人を惹きつけてしまう魅力は天性のもの?

自分次第でどうにだってなる

仕事としてやっていくためには、横のつながりをとにかく広げなきゃいけない。呼んでもらえるなら積極的に参加するようにしてスタンダードジャズも、ファンクもラテンもやります。生活のためでもあるし、より上手な人とセッションできるようになって自分も成長したいし。チャンスはそういうところにしか転がっていないと思います

大学時代に所属していたJampa Swing Orchestraというビッグバンドサークルではコンサートマスターを務めていた。夏と冬に合宿があり、24時間楽器の吹ける環境で部員全員が猛練習をする

「これまでの人生でやりたいことができていなかったのが中学の3年間。高校のときには、親に音楽の仕事をしたいって相談してました」　これまでの半生を話してくれたのだが、これが、軽妙な語り口も相まって抱腹絶倒なのだ。具体的に音楽に関わる仕事に就きたいと思ったのは高校生になってからのようだが、それ以前から音楽への熱は上がる一方。ディズニー映画の音楽シーンをビデオで繰り返し見て育った少女が、いかにしてプロミュージシャンになるのか。音楽への思いは最初から熱いものだった。

「5歳の頃だったか、習い事をやらせてあげるから一つ選べと。書道でもスイミングでもピアノでもいいし、なんでもいいから一つ選べといわれて、それでピアノを始めました。普通のピアノ教室でハノンやって、バイエルやって、ブルクミュラーやって」　ディズニーのビデオのように自分で音を出したかったという願望を叶えると、さらに音楽が好きになった。管楽器と出会うのは小学4年生のクラブ活動、ブラスバンドだった。ただしサックスではない。「音楽が、もう好きで音楽クラブに入って、トランペットをやったんですよ。今となっては根拠がよくわかんないんですけど、息を使って音を出す楽器にすごく惹かれていたんですよ、とにかく（笑）」　小学6年までの3年間はトランペットに夢中になった。中学になれば当然吹奏楽部へ、となるはずがそうは行かない。「中学校にあがるんですけど、中学校に吹奏楽部がなかったんですよ！　それで校長先生に聞きに行ったんです、直訴です！『なんで吹奏楽部ないんですか！』『楽器がないから』で終わったんですけど。なんで吹奏楽部ないの、普通あるじゃん（笑）」　かくして前言の「人生でやりたいことができていなかった3年間」が始まる。学校で音楽ができないとなると、これまでやってきたピアノを続けることが現実的な解決策だった。それでも「アラン・メンケンを尊敬する」中学生は、クラシックよりも合唱曲の伴奏で鬱憤を晴らすような音楽生活を送っていた。高校に進学するにあたっては、吹奏楽部があることが絶対条件だった。「高校の願書を出す時期が来る、第一志望の高校に吹奏楽部があることをちゃんと確認する、見に行く、まあまあうまい、OK！　行きたい、みたいな（笑）。それで受験するじゃないですか、なんと受験で落ちたんです。たぶん照準が音楽に向きすぎてて（笑）」　そうして不本意ながら第二志望の高校へ行くことになるのだが、そこに運命の出会いがあった。「第二志望には引っかかってるわけですよ、それで、行くのかと。ていうか、どこにあんのよ?という感じだったんです。尾北高校いう高校だったんですけど、行ってみたらまたしても吹奏楽部がないんです。だけど、ビッグバンドの部活があったんです！」　ここでトランペットをサックスに持ち替えることになるのだが、これも劇的。「ビッグバンドなのでサックス、トランペット、トロンボーンの3種類から楽器を選ぶんですけど、トランペットよりサックスの見た目がとにかくカッコ良かったんですよね。ちょっと吹かせて下さいといって“ブッ”て吹いたらもう気に入っちゃって、これにします（笑）。そこからは早かったですね、プロになりたいって」　自分の中にあった音楽への思い、いつか出会えると思い続けていたものは、サックスと出会った瞬間“これだっ”とわかったという。高校のバンドで活動するうち「Jmpa Swing Orchestra」のことを知り、1年生の冬を迎える頃には本学に入りたいと思っていた。

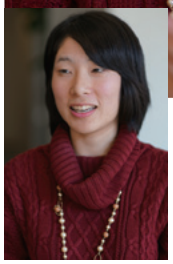
• • •

大学を卒業後は、プロとして活動を開始。プロミュージシャンにとって厳しい時代であることはご承知の通り。それでも、そんな時代の空気を跳ね返すように活動を続ける。「この数年で自分の中では一気に進んできているので、ちょっと追いついてない部分もあるんですけどね。15歳でサックスを始めて、人間とにかく10年間一生懸命やったら何かにはなるだろうと思って来ました。もしかしたら親に心配をかけることになるかもしれない。でも頑張ろうと思って来ました」

師匠である野々田万照氏からは、自分で自分を管理しプロデュースしていくことの大切さを教えられてきた。現在では活動の幅を広げ、曲作りを始め、音楽により深く関わりたいと考えるようになった。「昔は漠然と音楽を仕事にできたらどれほど幸せだろうと思っていましたが、今ではできるだけ長く音楽に関わって行きたい考えています」　走り続け、音楽への思いはさらに深く強いものになったようだ。

※アラン・メンケン：アメリカの作曲家。舞台音楽とディズニー映画の映画音楽で知られる。「美女と野獣」「A Whole New World（アラジン）」など。アカデミー作曲賞、アカデミー歌曲賞を受賞。

音楽療法って人の輪が広がる感じかな



Vol.70
NUA-Student
梶田奈月
（かじた　なつき）
音楽学部 音楽療法コース 3年

ミュージックボランティアサークルの活動。「子供からお年寄りまで幅広い年齢の方が来るので、誰でも楽しめるようにプログラムを考えます。簡単な楽器を使って演奏に参加してもらうこともあります」

お花見・七夕演奏会

地域の公民館で演奏しました

旧加藤邸にて演奏

夏休みのほとんどを費やしたトーンチャイム

普段よりちょっと大人っぽい？「ニットはお母さんと一緒に買いに行きました」

かばんの中には、楽譜にレジュメ、中学校の音楽の教科書。ノートには実技の記録がびっしり。手前はおべんとう

－音楽療法を選んだ理由は？

もともとは中学校の音楽の先生になりたかったんです。これまで私が出会った先生が、悩んでいる時に親身になってくれるようないい先生ばかりで、それで私も先生になろうと思って大学に入ったんです。音楽総合コースで入ったんですけど、1年生の最後の時に先生が障がい者の子に音楽療法をやっている現場を実際に見せていただいたんです。それにすごく感動しました。言葉を発せない障がい者の子たちと音楽を通してコミュニケーションを取っていく、それで一つの音楽を作っていく、先生たちとコミュニケーションが取れているなということをすごく感じてそこにすごく感動しました。音楽の先生になりたいと思っていたんですが、音楽療法コースに移動して専門的に勉強することにしました。

－先生にから音楽療法に変わったんだ

アルバイトで学習塾の丸付けをやっていたのですが、その塾に自閉症の子やダウン症の子がいてそういう子とかかわることも多かったんです。教員志望でしたが、音楽療法も知っておいたほうがいいだろうと思っていたので、どちらもできるように総合コースに入ったんです。

－音楽はいつ頃から好きだったの？

私が音楽をやる気になったのは、今思えば2歳か3歳の時にサンタさんから楽器のおもちゃをもらった時だったかもしれません。それですごく音楽に興味を持って、保育園の時にピアノを始めて、小学校6年生の時にクラブ活動でブラスバンドをやって、中学では吹奏楽部がなかったので合唱部に入って、高校で吹奏楽部に入りました。楽器はトロンボーンです。小学生の時のブラスバンドもトロンボーンでした。その頃は、私の中ではサンタさんは実在してまして、ずっとサンタさんに「トロンボーンが欲しい」とお願いしていたんです。親には「そんなに重たいもの運んでこられないよ」といわれてました（笑）。

－名古屋芸術大学を選んだ理由は？

オープンキャンパスに行ってみて、すごく設備が整っていて先生たちもいい人ばっかりで、ここがいいなと思いました。それから、いろんなことが学べるということが一番大きかったですね。音楽療法のこともちょこっとだけ頭にあったので、もう総合コースでやろうと思いました。同じ高校の部活の先輩が名芸に入ってすごく頑張っていらっしゃって、それを見て自分も同じように頑張りたいなと思ったのもありますね。

－サークル活動もやってる？

ミュージックボランティアサークルというサークルに所属しているんですけど、なぜか私が部長になっちゃって頑張っています。じつは、サークルに積極的に参加しようというきっかけになったのが、自分は音楽総合コースだったので、音楽療法コースにあんまり知り合いがいなかったんです。音楽療法の教室に行っても先輩たちがいると自分の居場所がなくて、先輩ともしゃべれないしどうしようかと思っていて、そこの先輩たちとのかかわりを増やすのが目的で参加したんですよ（笑）。本当のところは初めボランティアには、それほど強い思いはなかったんです。今は、障がい者の子どもにかかわる施設2つのボランティアと、単発で地域の人たちと小さな演奏会を開いて、そこで楽器を触ってもらったり自分たちの演奏を聴いてもらったりという活動をしています。

－サークルなのか授業なのか区別がないね。単位欲しいくらいだね（笑）

そうですね（笑）。うちのコースが主になってやっているサークルということもあって、授業の実践みたいですね。音楽療法と聴くと、私がそうだったんですが、癒やしてあげるだとか、おじいちゃんおばあちゃんに音楽を聴いてもらってよかったわ、といってもらえるのがそうなのかなと思ってたんです。だけど、いろいろなものを見てきたり体験したりしてきて、音楽を通して人と人とがつながるみたいな、人の輪が広がっていく感覚なのかなと思うようになりました。演奏のうまい下手じゃなくて、一人一人誰もが持っているリズムや音があるので、それを表現するのが音楽療法なのかなと、最近はすごく思います。

－音楽療法って演奏会とはまた違う達成感みたいなのがありそう

ありますよ。コンクールなどは、演奏が終わった瞬間うまくできた時泣けてくるみたいな達成感がありますけど、音楽療法はその音楽に感動して泣くというよりは、その人とつながった、その人が成長したっていうことに関して……

－成長？

何度もセッションに行っていると、今まで楽器で反応してくれなかった子がこの音楽が鳴ってる時には音で返してくれたとか、そういう発見があります。その時この子も成長したなと感じ、そのことで泣けてきそうになる時はありますね。

News & Topics ニュース&トピックス

大学総合

“2015芸大祭”が行われました

秋のキャンパスを賑わす最大のイベントである恒例の“芸大祭”が、2015年10月23日㈮から25日㈰まで3日間開催されました。

今年のテーマは、東キャンパス（音楽学部・人間発達学部）が「PALETTE」で、西キャンパス（美術学部・デザイン学部）は「まほろば」でした。

「PALETTE」には、「一人ひとりが個性豊かな色を持ちより、出会い触れ合いを楽しみ新しい色を生み出す場にしたい。また、様々なジャンルの音楽に触れ合い、様々な音色を楽しんでもらえる場を作り上げたい。」という思いが込められていました。

「まほろば」は、日本の古語で、「素晴らしい場所」「住み易い場所」といった意味を表す言葉です。テーマとしては、「この名古屋芸術大学が一人ひとりにとって素晴らしい場所となり、地域の方々になじみ深い場所にしたい。この祭りは、あなたにとっていつか思い起こす〔あのとき〕になりたい。帰りたくなる場所でありたい。」などの意味を表していました。

東キャンパスでは、多種多様なバンド演奏、盛り上がる企画満載のステージ、大人も遊べる子どもたちも楽しめる企画、恒例の模擬店など。西キャンパスでは、宝くじ、ミスコン、外来アーティストによるライブイベント、模擬店・企画展のグランプリ投票など、様々なイベントが行われました。

今回は、両キャンパスで行われたイベント等の「芸大祭ベストショット」を掲載してみました。

西キャンパス

1 芸大祭まほろばの実行委員会
2 実行委員会一年生たちが制作した“芸大祭まほろば”の垂れ幕
3 ミスコンイベント。今年は３年の方でした
4 先生も実行委員会に協力していただき“模擬店企画展グランプリ”の受賞店を決定
5 芸大祭恒例宝くじイベント
6 たくさんの企画展出展者の方が、自分たちが制作したものを売っています
7 毎年動画漫画研究部は特撮を撮ったり、イラストを描いたりしています
8 外来イベントのチケットの販売。当日はたくさんきていただきました
9 実行委員会２年生による企画展
10 毎年芸大祭にやってきて歌などのパフォーマンスをしてくれる謎の人

東キャンパス

1 芸大祭集合写真
2 中音部の皆さん
3 ミュージカルの一コマ
4 和太鼓部の演奏
5 メインステージでの演奏
6 リズム体操部の皆さん
7 エンディングの様子
8 メインステージでの演奏による企画展
9 サブステージでの演奏風景
10 ダンスサークル部の皆さん

音楽学部

新任教員コンサートが開催されました

2015年度本学音楽学部演奏学科に着任された非常勤講師のうち、有志によるコンサートが、2015年11月5日㈭、東キャンパス3号館音楽講堂ホールで行われました。

出演されたのは、声楽コースから大須賀園枝講師と、ピアノコースから飯田あかね・兼重優子・前川 晶講師の4名で、それぞれ独奏を披露されました。また、ピアノでは飯田あかね・兼重優子両氏による連弾や2台ピアノも演奏されました。

会場を埋めた学生たちや教職員から暖かい拍手が送られました。

1 飯田あかね講師の演奏
2 大須賀園枝講師のソプラノ
3 兼重優子講師の演奏
4 飯田あかね・兼重優子両氏の連弾
5 前川 晶講師の演奏
6 飯田あかね・兼重優子両氏による２台ピアノ

音楽学部

室内楽の夕べ2015が開演されました

2015年11月12日㈭、名古屋市中区の電気文化会館ザ・コンサートホールで「室内楽の夕べ2015」（小編成の部）が開演されました。

今年度は、「ピアノの夕べ」と「室内楽の夕べ」が一夜で開催されたことで、盛りたくさんのプログラムとなりました。

出演者は学内のオーディションで選ばれ、このステージに向け研鑽を積み重ねてきた学生たちです。

ピアノのソロでは味わうことのできない2台ピアノや連弾の華麗な響き、ドラマチックな表現、息を呑むような掛け合いが披露されました。また、ピアノも含めた室内楽では、フルートやクラリネット、ヴァイオリン、トランペット、サクソフォーン、ホルンなど様々な編成のプログラムが演奏されました。会場は心地よい音色に包まれていました。

1 2台ピアノ演奏
2 サクソフォーンオーケストラ（大編成）
3 ヴァイオリン・クラリネット・ピアノのアンサンブル
4 サクソフォーンアンサンブル
5 フルートアンサンブル
6 ブラスアンサンブル（大編成）
7 フルートオーケストラ（大編成）
8 フルートとクラリネットのアンサンブル
9 金管五重奏
10 木管五重奏

続いて、11月28日㈯には大編成の部が本学東キャンパス3号館ホールで開催されました。こちらはオーケストラ編成の演奏で、サクソフォーンオーケストラ・クラリネットオーケストラ・フルートオーケストラを中心に、パーカッションとブラスのアンサンブルも演奏されました。オーケストラの指揮は、サクソフォーンが三日月孝、クラリネットが竹内 雅一、フルートは高木 直喜で、いずれも本学教員が執りました。

オーケストラの重厚かつ軽快な音色がホール一杯に響き、来場者には時を忘れる夕べとなりました。

音楽学部

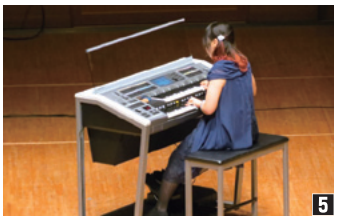
第38回 定期演奏会が行われました

2015年11月19日㈭、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで、本学音楽学部の第38回定期演奏会が開催されました。

本学音楽学部は、指導方針の一つとして、学生は毎日の練習とレッスンを受けるのみでなく、舞台での演奏によって、その成果と教育効果を格段に高めることができると考えております。その意味からも多数の演奏会を開催し、多くの学生が出演できる機会を作っています。

この定期演奏会は、学年を問わずたくさんの学生が参加したオーディションによって選抜された出演者によるもので、独奏・独唱の形態による各個人の専門的な修練と音楽表現の成果を披露する演奏会となっています。

1 ピアノ独奏
2 ソプラノ独唱
3 フルートの演奏
4 ファゴットの演奏
5 電子オルガンの演奏



プログラムは、前半に、電子オルガンからバリトンまで8名の学生が、休憩を挟んで後半は、バスクラリネットからソプラノまで9名の学生が出演、合計17名が独奏・独唱を披露してくれました。ピアノ伴奏は主に、卒業生や院生が担当しました。

緊張しながらも、日ごろの成果を精一杯披露する学生たちに、会場から暖かい拍手が送られていました。

人間発達学部

浜谷直人氏「『発達障がい児など困難をかかえた子どもの保育』－自己肯定感と仲間意識の視点から－」が開催されました

人間発達学部が主催する特別公開講座が、2015年9月19日㈯、ウィルあいち（名古屋市東区）で開催されました。首都大学東京・教授の浜谷直人氏を講師に、「『発達障がい児など困難をかかえた子どもの保育』－自己肯定感と仲間意識の視点から－」をテーマに行われました。

会場には、人間発達学部の学生をはじめ、卒業生や幼稚園・保育所・子ども園の先生など教育の現場に携わる大勢の皆さんにご来場いただきました。

浜谷氏は、保育園・幼稚園・学童クラブ・学校への巡回相談員として、保育者・教師・指導員とともに、子どもたちへの発達の保障と活動への参加の実現、その支援実践の理論化に取り組まれています。

講座では、浜谷氏の著書「仲間とともに自己肯定感が育つ保育―安心のなかで挑戦する子どもたち」や「場面の切り替えから保育を見直す―遊びこむ実践で仲間意識が育つ」などで発表された内容に、巡回相談員として、実際に保育の現場で見聞きした事例を交え、発達障がいを持つ子どもたちの支援について説明をされました。

1 浜谷直人氏の講座の様子
2 会場の様子

「支援を必要とする発達障がい

を持つ子どもがいるクラスの先生は、その子ども自身に関心が向きがちですが、クラスの中には、発達障がいを持つ子どもに影響を及ぼす、挑発者（ミニ先生）や問題児などがいることに注目すべきです。実は、その挑発者や問題児なども支援を必要としています。『支援が必要な子どもがいるクラス』という見方ではなく、『支援が必要なクラス』だといった認識で取り組みましょう。」と解説されました。さらに、「発達障がいを持った子どもたちと生活するということは、彼らの気持ちを受け止めた上で共同生活をするということです。今まで抱いていた共同生活のイメージとは異なるかもしれませんが、すごく面白いことが生まれる可能性を秘めています。」と付け加えました。

続いて、自己肯定感の育み方や遊び込みの重要性、場面の切り替えのポイントについて解説をされました。その話しの中で、「子どもの自己肯定感の育成の前に、保育者が自己肯定感を感じられることが大切です。『保育っていいな～』『保育者でよかったな～』といったように、じんわりとした達成感が味わえるようになりたいですね。」と、会場の保育者の方々にアドバイスを送られました。

最後に「大人たちが決めた形に子どもたちを繕うのではなく、発達障がいを持った子どもの世界に自ら寄り添いながら、その世界を好きになり、保育者自身も楽しみながら、保育も子どもも大好きになることが大切です。心の底から『明日またおいでよ』『明日○○しようね』って言えるような保育の積み重ねの中でこそ、困難をかかえた子どもの保育は花開いて行くと思います。これからも、皆さんと一緒に考えて行きたいですね。」と講座を結び、客席から大きな拍手が送られました。

人間発達学部

「就職支援セミナーⅠ」が行われました

2015年11月19日㈭、本学東キャンパス1号館で、人間発達学部の就職支援セミナーⅠが行われました。このセミナーは、採用が内定した現4年生から採用試験にかかわる体験談を聞き、次年度の採用試験に向けて、学部の3年生の意識の高揚を図ることを目的として開催されています。

セミナーは分科会に別れていて、3年生は自分の進路や希望にそってそれぞれの分科会に入って受講します。分科会は①公立幼稚園・保育所、②私立幼稚園・保育所、③小学校、④社会福祉関係、⑤企業・一般公務員等の5つで、講師役の4年生がそれぞれの分科会に2～3人ずつ入って、自己紹介をした後体験談を発表しました。セミナーでは資料も配布され、15分から20分程度の体験談の後で3年生からの質問に答えるといったかたちで進行しました。

先輩のリアルな体験談を聞き、熱心に質問する3年生の姿が印象的でした。

この就職支援セミナーは、「就職支援セミナーⅡ（卒業生の体験談を聞く会）」も行われています。

1 小学校の分科会での体験談発表の様子
2 公立幼稚園・保育所の分科会での発表
3 私立幼稚園・保育所の分科会の様子

美術学部　デザイン学部

デザイン学部特別客員教授ポール・プリーストマン氏によるデザインレクチャーが開催されました

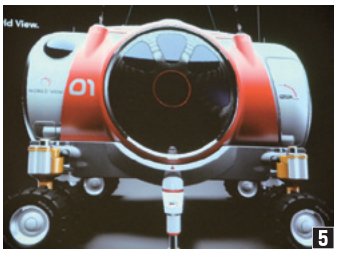
2015年10月3日㈯、本学西キャンパスB棟大講義室で、デザイン学部特別客員教授のポール・プリーストマン氏によるデザインレクチャーが開催されました。

レクチャーに先立ち10月1日、2日には、インダストリアルデザインコースの3年生を主対象とした自転車のデザインワークショップが開催されました。学生たちは4グループに分かれてアイデアを出し合い、ポール・プリーストマン氏からベストのアイデアの指示を受け、それをデザインしてプレゼンテーションするといった内容で行われました。

この日のレクチャーでは、プリーストマン氏による未来の鉄道の乗り換え方の提案をはじめ、ロンドン地下鉄のニューデザイン、エアバス社やカタール航空ファーストクラスのインテリアデザイン、タイ航空、ユナイテッド航空のブランディング、機内シートと一体になる移動式シートの提案、NASAから依頼を受けた宇宙カプセルの提案などについて、画像や映像を見ながら詳しく解説されました。

「問題解決型」のデザインを得意とするプリーストマン氏は、レクチャーの中で、大都市を中心とした大気汚染を深刻に捉え、物流などのクルマ利用を減らすための手段の一つとして、大量輸送の良さを見直すことに現在興味を持っていると説明されました。鉄道や航空機などのデザインを数多く手がけられている背景には、そんな理由があるのかもしれません。

そのプリーストマン氏のオフィスにはCG映像制作部門があり、今日のプロダクトデザインでは、立体的に構成されたデザインアイデアを、スピーディーに立体映像化することが求められていると説明されました。他にも、グラフィックやテキスタイルなどの専門部門があり、デザイナーたちが



1 ポール・プリーストマン氏
2 デザインワークショップの様子
3 プリーストマン氏が手がけたロンドンの地下鉄
4 航空機の室内デザインの一例
5 宇宙カプセルのビジュアル

ポール・プリーストマン氏　略歴

英国王立美術大学院（RCA）インダストリアルデザイン学部を修了後、大阪国際デザインコンペで通産大臣賞を獲得。1989年にプリーストマン&グッディデザインオフィスを設立し、1991年に高齢者や障害者に使いやすいガスクッカーでU.K. Design Awardを受賞。1996年にインペリアルカレッジと共同開発したヨットの帆の空力を活用した布製扇風機「SOFT FAN」でU.S.ID Awardを受賞。2014年にはU.K.ベストデザインオフィスに選ばれ、活躍の場を世界へと広げている。

プロジェクトに取り組む際には、2〜3週間ほどクライアントの現地に滞在し、その国の文化に関するリファレンス（詳細マニュアル）を必ず作成するとしました。それは、国によってデザインスタイルに違いや共通点があり、その国の文化をより多くリサーチして、よく研究していくことが大切だからだと話されました。

最後に、「デザイナーを目指す人は、オールラウンダーである必要はありません。自分が興味を持った専門分野に特化すればいいと思います。ただし、これからいろいろなことに興味を持つことと思いますが、その興味の対象が変化していくことはとても良いことです。」と参加者に伝え、このレクチャーを締めくくりました。

美術学部　デザイン学部

現代アートとデザインの展覧会 常滑フィールド・トリップ2015が行われました

2015年10月17日(土)から25日(日)まで9日間にわたり、現代アートとデザインの展覧会「常滑フィールド・トリップ2015」が、開催されました。2008年に始まり、今年で8回目を迎えたこのイベントは、愛知県常滑市の「やきもの散歩道」とその周辺を会場として、地域の人々の支援のもと、多くのアーティストやデザイナーが参加して行われており、今を生きる彼らが思い思いのスタイルで現在の常滑を捉え、関わった作品を展示しています。

ルート出発地点は本学常滑工房で、そこでルートマップを受け取り、各会場を歩いてめぐります。ここには、本学平田研究室が、椅子やテーブル、棚など身の回りの家具や道具を再生産した作品「re-design2015」が展示されていました。また、塚田茉生氏の作品「消えていくこと」や、佐藤元紀氏の「もう一つの部屋」などの展示も見られました。

常滑工房に隣接する展示会場rin’には、愛知淑徳大学さかくらゼミにより、「常滑のまち、ひと、ものとの関わりを通して姿を表す作品世界＝relations」が表現されていて、沢山の写真やパネル、模型などが展示されていました。

坂を下ってだんご茶屋を左に曲がっていくと、江戸時代のロマンと栄華を伝える廻船問屋瀧田家が見えてきます。瀧田家は江戸時代から続く廻船問屋で、150年前の風情がそのままに復元されていて、常滑の生活文化や海運の歴史に触れ合うことができ、どことなく懐かしさを感じられます。瀧田家に残る蔵のギャラリーには、名古屋学芸大学Creative Archive Projectによる「常滑アーカイヴ#03」という作品が展示されていました。

瀧田家を過ぎると、道の両壁に土管がぎっしり埋め込まれた土管坂が続きます。常滑らしさを象徴する散歩道で、懐かしさと風情のある通りが現れます。

散歩道案内板を右手に見ながら歩いて行くと、「ノベルティーグッズ」のお店があり、そこに、本学の銀河調査部交流課（6名の作家）による「又ぅ星人のヒューマン研究所」と題した作品が置いてありました。“常滑の地に移住を始めた星人たちと豊かな共存生活を目指したもの”を発信しているとのことです。

再び坂を下っていくと、築150年のお洒落な小民家の下村邸へと続きます。ここには、愛知淑徳大学萩原ゼミの学生たちがインスタレーション作品「scene」を、小さな沢山.のスライドプロジェクターを使って展示していました。

下村邸から登窯を見ながらしばらく歩き国道に出る手前、旧常滑保育園の向かいに、片岡秋次製陶所倉庫があり、この二階と中三階にも作品展示がありました。カフェと一体となった展示場で、ほんのり薄暗い空間の中で、ゆったりとお茶を飲みながら作品を鑑賞できます。

国道を右に曲がってしばらく歩き、また坂を上っていくと、大小さまざまな煙突がある風景が眼前に迫ってきます。レンガ造りの煙突や大きな窯がところどころに点在し、焼き物の一大産地だった頃の面影を残す常滑市。やきもの散歩道一帯は、起伏のある路地が入り組み、荒れた家屋や空き地が目立つ中、新しい建物も増え、新旧が渾然一体となって、この地独特の風情を醸し出していました。

常滑フィールド・トリップ2015。期間中は、大勢の観光客や団体旅行の人たち、また、ロードマップを片手に持って展示会場を訪ねながら作品を鑑賞する二人連れなどで賑わっていました。

1 本学平田研究室の作品「re-design2015」
2 塚田茉生氏の作品「消えていくこと」
3 愛展示会場rin’愛知淑徳大学さかくらゼミの「relations」
4 廻船問屋瀧田家の正門
5 瀧田家に残る蔵のギャラリー「名古屋学芸大学Creative Archive Projectによる「常滑アーカイヴ#03」
6 道の両壁に土管がぎっしり埋め込まれた土管坂
7 本学の銀河調査部交流課 「又ぅ星人のヒューマン研究所」
8 煙突が並ぶ常滑の町の風景

美術学部　デザイン学部

カーデザイナー内田盾男氏による カーデザインコース新設記念講演会が行われました

2015年11月14日(土)、西キャンパスB棟大講義室で、イタリア・トリノ市で活躍する世界的なカーデザイナー内田盾男氏を招き、カーデザインコース新設記念講演会が開催されました。

講演会の冒頭では、内田氏と親交が深く、2016年4月に新設される本学デザイン学部カーデザインコースを担当する片岡祐司教授より、カーデザインコースの概要について説明がありました。その中で片岡教授は、自動車産業が集積する東海エリアには多くの自動車メーカーやサプライヤーの拠点があり、この地にある本学にカーデザイン専門コースが設置されることに、多くの自動車関連企業から期待の声が寄せられていることを伝えました。

続いて行われた講演では、イタリアデザインの特長や世界のカーデザイン最新トレンドについて内田氏が解説されました。内田氏によると、現在の自動車メーカーは、クルマの位置づけをファッションやインテリア、食文化を含めたライフスタイルの一つとして捉えていると言います。その例として、国際家具見本市の「ミラノサローネ」（現ミラノ・デザインウィーク）を取り上げ、多くの自動車メーカーがこぞって参加する状況を伝えました。内田氏のレポートシートでは、会場内の各自動車メーカーの展示ブースでは、ファッションや音楽、アートなどが溢れ、クルマとそのクルマに乗る人のライフシーンを一体で表現しているのが特長的でした。

また、今年9月に開催された国際的な自動車ショー「フランクフルトモーターショー 2015」を例にしたクルマの最新トレンド解説では、ランボルギーニやロールスロイスといったプレミアムブランドが大型プレミアムSUVに力を注ぐ反面、ポルシェなどスポーツタイプの大排気量車でさえプラグ

インハイブリットやEV（電気自動車）を採用し、環境面に配慮する傾向が顕著に表れているとしました。

さらに、エンジンの小型高性能化に伴う軽量化とダウンサイジング、燃費向上により室内空間の拡張や、コストを下げる自動運転技術の研究・実装など、最新テクノロジーを全面に打ち出して、各自動車メーカーはブランドイメージを高めることに積極的に取り組んでいます。デザイン面では、旧型車のエクステリア（外装）デザインをモチーフに、細部の仕様変更で新しさを表現するのが最近のブランド戦略の主流のようです。一方室内デザインは、70年代のクラシックな雰囲気を採用するメーカーも現れてきています。

他にも、このフランクフルトモーターショーでは、アイシンやデンソーといった日本の大手サプライヤーの参加が増加しており、欧州の生産車用にパーツを供給するなど、目には見えないところでプレゼンス（存在感）を積み重ねていると説明されました。

講義の中で内田氏は、イタリアデザインの特長は「カッコいい」が全ての基準だと述べ、それは、ヨーロッパでも地下資源が乏しいイタリアにとって、デザインは富を生む価値があるものとして昔から力を注いできた歴史があるからだとしました。同じく日本も地下資源が乏しい国として、人が最大の資源だとする内田氏は、聴講する学生に期待を込め、「いいカーデザイナーとして育って行ってください。」とエールを送りました。

最後に、会場からの質問に答え、内田氏はこの講演会を終えられました。

1 カーデザイナー内田盾男氏
2 カーデザインコースの説明をする片岡祐司教授
3 4 5 6 講義で使われたクルマとライフスタイルの解説シート（内田氏レポートより）

内田盾男氏　略歴

1965年、カーデザイナーを志してイタリアに渡り、トリノの「カロッツェリア・ミケロッティ」に入社、ジョバンニ・ミケロッティに師事。同社チーフ・デザイナー、副社長を経て独立、88年からデザイン・コンサルタント会社Forum（フォルム）を主宰しカーデザインを通じて日本とイタリアをつなげる。日本ではENGINE、CAR GRAPHIC等の自動車雑誌にしばしば登場、著書には「ラ・ミア・マッキナ」（二玄社）がある。

美術学部　デザイン学部

旧加藤邸 アートプロジェクト2015『記憶の庭で遊ぶ』が開催されました

明治時代に建てられた国登録有形文化財『旧加藤家住宅』は、日本の民家や生活様式の伝統が息づいています。ここには北名古屋市が運営する『回想法センター』が併設され、市民の記憶を喚起する様々な活動が行われています。

この建物や庭に名古屋芸術大学の学生・卒業生、教員がアート作品を展示する「旧加藤邸アートプロジェクト2015」が、2015年11

1 旧加藤家住宅：正門から母屋を望む
2 3 4 5 展示された作品
6 7 8 音楽パフォーマンスの様子

Column NUA No.31

4学部を「つなぐ」絵本読み聞かせ

美術学部教養部会准教授　早川 知江

4学部を備えた名古屋芸術大学の最大の魅力は何でしょうか。それは、各学部で特色ある人材を育てているのだから、学生が、学部の境界を越えて能力や技術を持ち寄り、互いの才能に触れながら協同で何かができることだと思っています。

そんな思いから、2013年度より、有志の教職員による「名古屋芸大つなぐプロジェクト」に参加しています。これは「つなぐ」という名の通り、4学部（音楽・美術・デザイン・人間発達）をつないで、相互交流をはかりながら大学を盛り上げようというプロジェクトです。これまでに、音楽学部生らによる学内コンサート（美・デ学生にも音楽に親しんでもらうため、西キャンパスでもたびたび開催）や、「今月の一冊」（教職員のおすすめ図書紹介）、職員による韓国語・中国語ゼミ、「フィルム・ナイト」（教職員・学生による映画の上映および解説）など、様々な企画が行われてきました。

中でも、4学部をつないで技能を結集するという趣旨に最も適っている企画は、「絵本読み聞かせ」でしょう。これは、美術・デザインの学生が絵本を制作し、人間発達学部生が朗読し、音楽学部生が生演奏のBGMや効果音を付け、子どもたちに読み聞かせるという企画です。

できあがった絵本を持ち寄っては、授業外に朗読や演奏の練習を重ね、既に、東西学食、クリエ幼稚園、北名古屋市主催のキッズタウン、人間発達学部主催のにこにこワークショップ、春を呼ぶフェスティバルなどで発表してきました。

そしてこの秋（2015年11月）、大イベントが続けて2つありました。一つは、リニモ近隣の大学が共同で行う大学祭「リニモ沿線合同大学祭（リニ祭）」への出品、もう一つは、「NHKパパママフェスティバル」でのステージ発表です。リニ祭では、「入れる絵本」と称して、誰もが知っている童話『ヘンゼル

月14日㈯から11月22日㈰まで開催されました。

テーマを『記憶の庭で遊ぶ』とし、各自の芸術を探究する学生や卒業生たちが、この旧加藤家住宅という場から触発された発想やイメージを、どのような造形としてこの場の記憶を新たにするかを目的とした展覧会です。

今年度は、美術学部・デザイン学部の学生や卒業生から12組が出品しました。また、特別出品として、美術学部彫刻コース非常勤講師の磯部 聡氏と、美術学部アートクリエイターコース准教授の松岡 徹氏の作品も展示されました。

オープニングセレモニーが初日14日㈯の午後2時から会場で開かれ、ガラス・陶芸・彫刻・版画など今回出展しているアーティストによるトークが行われました。

毎回行われている音楽パフォーマンスは、11月22日㈰、午後2時から、音楽文化創造学科音楽療法コースの学生・卒業生、教員有志によって、玄関を入ってすぐ横の台所と母屋の座敷を使って、来場者参加型で行われました。庭園に取り囲まれた純和風の建物の中で、周囲の雰囲気にマッチした音楽の調べに、訪れた人たちはしばし時を忘れて聞き入っていました。

開催期間中はご近所の人たちを中心に大勢の来場者があり、伝統的な日本家屋の様式や展示された芸術作品を楽しんでいました。

名古屋芸大グループ校特集

名古屋芸術大学 保育専門学校

キャンパス内幼児園の協力のもと、1年生の保育所プレ実習を実施しています

名古屋芸術大学保育専門学校では、入学生に実習指導の最初の授業で、『今までの保育の経験・子どもとの触れ合いの経験』について聞いています。そして、この4、5年、「0歳児や1歳児の子どもと関わったことがない。」「抱っこしたり、オムツ替えをしたりしたことがない。」と言う回答が常に85パーセントを越えていました。今の若い世代には乳幼児に触れ合う機会がほとんどなく、実習に出すことに不安を感じていました。平成25年度に「たきこ幼児園」が開園したこともあり、今年度から何とかプレ実習をやっていただけないかとお願いし、プレ実習を実施していただくこととなりました。授業の単位には結びつきませんが、外の実習に行く前に子どもに触れ、オムツ替えや授乳、離乳食を食べる補助を体験させていただき、保育園の生活を知る事をねらいに実施しました。

プレ実習を行う前に、たきこ幼児園の園長先生から次のようなお話を伺いました。「保育園の生活に皆さんが加わって、子どもたちとたくさん触れ合うことで、子どもの真の姿や保育士の仕事を実感することができます。たきこ幼児園の子どもたちも先生方も楽しみに待っています。ここで出会う子どもたちとの関わりが保育者としての貴重な第1歩になることと思います。楽しんでください。」との温かいお言葉に、学生たちは真剣な眼差しで話に聞き入っておりました。

プレ実習はグループに分かれ、3日間行かせていただきました。実習初日には、緊張した面持ちで保育園の門をくぐりましたが、子どもたちと出会ったとたんに笑顔になることができました。恐る恐る、先生に教えてもらいながらオムツを替えたり、泣く子を抱っこしたりと汗だくになって子どもと触れ合いました。先生の真似をして子どもと遊び、一緒に給食を食べ、保育園での生活を経験することができました。初めて未満児と触れ合う学生がほとんどで、本当によい経験となりました。

学生の感想では、「オムツ替えが大変だった。子どもが動いてしまってどうしたら替えさせてくれるか分からなかった。布オムツをどうあてればよいのか分からなかった。」が一番多かったのですが、なかには先生から一人ひとりの子どもについてお話を伺い、0歳児、1歳児2歳児と入れていただいたことで、子どもの発達が分かった。という声もありました。職員に本校の卒業生が多いこともあって、親しみをもって保育のことや仕事のことなども、聞くことができたようです。この1年生の保育所プレ実習は本校の特色を大きく裏付けるものであり、学生にとってもこの体験は、これから始まる他の保育所での実習につながる大きな礎となりました。滝子キャンパスには、幼稚園と保育園ができましたことは、保育者の養成施設にとってとてもありがたいことです。学生は1年生から、夏まつり、運動会、音楽会、生活発表会など様々な園の行事に参加させていただき、保育者としての仕事を学んでいくことができています。また、保育科1年生の学生が保育ボランティアでパズルを製作し、保育園の子どもたちに使ってもらいました。自分の製作したものが子どもたちの遊びにどの様に関わってくるのかなど、様々なことを学ぶことができるキャンパスになりました。

これからも滝子幼稚園・たきこ幼児園と密に連携をとり、お互いに学びあいながら、楽しく、生き生きとした滝子キャンパスとなるようにしていきたいと考えています。

とグレーテル』の各場面を大きな布に描いてタペストリーを制作し、登場人物の顔をくりぬいて、会場を訪れた子どもたちが、穴から顔を出しながら各タペストリーを巡ることで、登場人物になりきって絵本の世界を体験できるようにしました。パパママフェスティバルでは、そのタペストリーを利用し、本学（短大時）卒業生で現NHKキャスターの野田英里さんと本学学生がお話を朗読し、キーボードやピアニカ、各種打楽器の生演奏も付けてステージ発表を行いました。

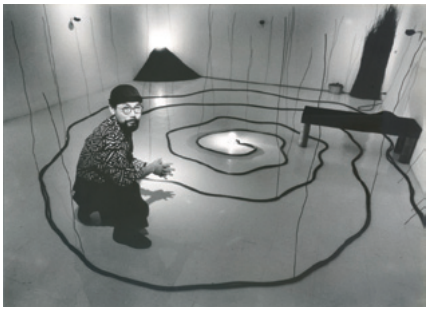
結果として、会場の子どもたちの反応も上々で、学生の自信につながったと思います。しかし個人的には、最大の収穫は、準備や練習の過程で学生たちの距離がぐっと近づいたことだと思っています。タペストリーの下絵作成、下絵を拡大して布に描く作業、彩色、朗読練習、演奏練習、全て学生が自発的に、膨大な時間を費やして成し遂げたことです。その間おそらく、うまくいなかったこと、自信を無くしたこと、練習が嫌になったこと、いろいろあったと思いますが、学生たちは互いに助け合い、励まし合って立派に切り抜けました。

大学の一番の財産は、こうした学生たちであることを再認識するとともに、学生目線で魅力的な大学とは何かを考えることが教員の使命であると実感しています。

マスター to アーティスト

【第31回】

＜ 見 る 力 ＞



1993.6.12（土） 桜画廊 個展
中日新聞／写真部 岡田隆平

久野利博 デザイン学部 教授
（くの としひろ）

1948年 愛知県生まれ
1974年 名古屋造形芸術短期大学専攻科修了
1986年 名古屋市芸術奨励賞受賞
2010年 愛知県芸術文化選奨文化賞受賞

高校卒業後、公務員、民間会社を経て大学へ進学。大学卒業後は、高校非常勤講師、本学デザイン科非常勤講師、河合塾美術研究所専任講師等で美術、デザインを教える。

研究室にお伺いした。部屋の中には、久野氏が「小道具」と呼ぶ、インスタレーションで使用される古今東西の多数の生活用品が所狭しと飾られる。小道具と同様にいくつも壁に飾られているのがポスター。過去に氏が係わった展覧会のもの以外にも、“今”行われている展覧会、琳派展もあれば茶道具、現代美術……と、あらゆるジャンルの展覧会のポスターとチラシが貼られている。「僕は、学生たちに教えるのが仕事。こんな面白い展覧会があるから見てこいと勧める立場。教えるには、知っていなければいけないと思っています」 幅の広さに興味がかき立てられる。

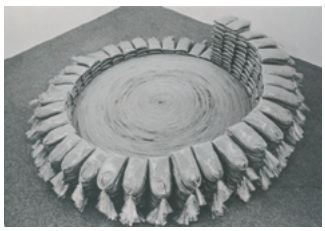
自分の原点は、「見る」ことだという。高校の頃には、ただロダンの展覧会を見るためだけに京都まで足を運んだ。河合塾美術研究所に勤めていた頃には、塾内のギャラリー NAFのディレクターとして、見たい作家を数多く招いた。これまでの活動を顧みても、芸術家として自分の作品を創るということ以外に「見る」ことや「伝える」ことが大きなウエイトを占めているといえよう。教えるために見ておくというが、それ以上のものがあるのは明らかだ。「好きだから見に行ける。僕の中にある『見てやろう精神』ですよ。古いも、新しいも、アート、デザイン、古美術、ジャンルを飛び越えていいものはいい、という観点から何でも見ている。本物が見たいんですよ」

「見る」ことは、人との関係にも通じる。学生時代に優秀ではなかった学生が、卒業後に大きく伸びたということを何度も目の当たりにした。「美術は化けることがことがある。インスピレーションが弾けて、ものすごくいい作品が突然できてしまう。美術ではそういうことが起きます。それを見抜く力がなければ、その人をつぶしてしまうことになりますよ」 人間、いつどこでどうなるかは誰にもわからない。人が持っている資質が、いつ花開くかわからない。しかし、その予兆を見逃さないよう、真正面から当たっていることが伝わってくる。「接し方さえ間違っていなければ何か響くかも知れない。ダメといわない。否定するのは簡単だけどそれは正しいやり方じゃないように思います」 学生時代、彫刻家の野水信に学んだ。直接指導を受けるというよりも、生き方を見せられた。よく連れられた居酒屋で、師の友人である作家やギャラリーらが話す作家論を聞いた。交わされた言葉がいつまでも心に引っかかる。作家としてやっていく決意も師の言葉だったという。学生たちには、同じように接していきたいという。

「見る」ことは創作の基礎でもある。「１９７７年、作家になって３，４年経った頃、ヨーロッパに行きたいという思いが強くな

Untitled 1991-3
「セブン・アーチスツ-今日の日本美術展」
ポートランド美術館（ポートランド／アメリカ）

Untitled 1991-August
砂袋（フジ砂）、番線（#10）、木、裸電球、コード、鉛
名古屋市民ギャラリー（名古屋）
撮影／福岡栄



Untitled 1984-85
φ300cm、ロープ、砂袋
Musée Cantonal des Beaux-Arts in Lausanne（ローザンヌ州立美術館）（ローザンヌ／スイス）

Untitled 1990-2
φ380cm、鉄　ウエストベスギャラリー 個展（名古屋）
金属棒の数字（0を中心に渦巻き状に広がって498）を床にインスタレーションする

学生時代の制作風景。恩師である野水信は、直接的に手を使い教えることよりも、自分や同世代の作家の現場を見せるような、生き方を教えてくれる師であったという。

BODY DISTANCE

Toshihiro Kuno

風景に自身が横たわる場面を写し込んだ一連の作品。肉体で空間を表現することに加え、場所と日時が記され日記的な要素もある。端正な構図、静けさなど写真としても見応えがある。

1991年　サンタ・モニカ美術館他「セブン・アーチスツ-今日の日本美術展」へ招待出品
　　アメリカ・メキシコへ巡回展
1994年　ポジション展（名古屋市美術館）
1995年　愛知県美術館・名古屋市美術館「“還流”日韓現代美術展」へ招待出品
　　第1回光州ビエンナーレへ出品（韓国）
1996年　“家事分担”金守子＋久野利博（アキラ イケダギャラリー田浦）
　　個展Contemporary Art Center of Vilnius（Vilnius/Lithuania）
1997年　個展CHONGRO Gallery（ソウル／韓国）
1998年　第24回サンパウロ・ビエンナーレへ出品（ブラジル）国別日本代表
2001年　ikiro-be alive－日本現代美術展（クレラー＝ミュラー美術館／オランダ）
2001年　オハイオ州立大学ワークショップ（コロンバス／USA）
2004年　個展（名古屋市美術館）
2006年　“folklorism”Shim Moon Seup+Toshiniro Kuno
　　（SPACE TEUMSAE・ソウル／韓国）
2008年　「版」の誘惑展（名古屋市美術館）
　　名古屋市美術館メンバーシップカレンダー 製作
2010年　個展　碧南市哲学たいけん村無我苑（碧南／愛知）
　　あいちアートの森（廻船問屋瀧田家、常滑）
2013年　個展ガレリアフィナルテ（名古屋）
　　名品コレクション展Ⅲ（名古屋市美術館）

って、４週間行ったのが初めてでした」当時、日本国内ではまだあまり知られていなかったドクメンタ（ドイツの古都カッセルで５年ごとに開かれる現代美術展）を見に行った。衝撃だった。「時代性と自分の作品との比較や、先を読むことや表現方法であるとか、このときの経験が僕自身の核になっているように思います。本で見るのではなく本物を見ることが一番大きかった。確実に肥やしになっている。僕を鍛えてくれた一番の理由だと思う」 それから２０年以上、６度もドクメンタには通うことになる。現代美術の先端を行く作家と作品を注意深く見ることで、自身の作品や考えも徐々に変化し、彫刻の枠を超え、空間を意識するインスタレーションへ、さらに人間の感情を揺さぶり記憶を呼び覚ますような作品へと発展していく。

デザインの分野でもさまざま足跡を残している。ギャラリー NAFの運営を行っていたときには、案内状を自分でデザインしていた。それらを見て、作家から展示方法やパンフレットを任されることもしばしばだったという。建築家の葉祥栄氏からは作品模型の展示まで任された。「不安でしたが、僕なりに頑張って展示を考えました。見に来られて『いいですね』と声をかけてくれたときにはほっとしました。そういう教育を受けたわけではなく独学ですが、当時の自分なりにできる限りのことをしようと思ってやってきた。いろいろと『見て』きたからできるんだろうと、目利きでやってきたんですよ」

「技術は、やっていれば上手くなる。でも感性というのは自分が磨かなかったら、だんだん衰える。時代の流れたとか、本物を見ないことにはわからない。僕らの仕事は、それが財産じゃないですか」 学生たちにも、理屈抜きで本物を見ることを強く勧める。ことに自分の好み以外の展覧会であっても見ることに大きな価値があるという。「デザインの人はアートを軽視する。アートの人はデザインを理解しない。だからミスマッチが起こる。もう一つ、デザイナーやアーティストでも意外と展覧会をあまり見に行っていない。大抵の人は、好きなものしか見に行かないけど、本当は嫌いなものを見なければいけない。その中から一つでもいいものがあったらと思わないと。今は興味なくても後から好きになることもよくあること。だからできるだけ見ておけといいたい」 鑑賞眼の奥には、創作する人への深い慈愛があるように感じた。

研究室には、尊敬する作家、ヨーゼフ・ボイスの写真とメモが飾られる。初めて欧州を訪れた時、偶然出会い、ポートフォリオに意見をもらった。後の活動に大きな影響を受けることになる。

2004年　皆川明氏の個展「imperfect」での打ち合わせ。皆川明氏、故落合紀文教授との想い出の一枚。

Information
インフォメーション

出版 Books

教員著作の出版物のご紹介です。
（編集期限までに報告されたもの）

■安部　孝（編著者）
（名古屋芸術大学人間発達学部
子ども発達学科准教授）
著者／石山貴章・神戸洋子・木許隆・草信和世・
齋藤千恵子・坂本喜恵子・染川喜久江・
原田智鶴
『自分でつくるBOOK & NOTE』
—教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう！—
●発行／株式会社　同文書院

■金子敦子（制作・監修）
（名古屋芸術大学音楽学部教授）
DVD
『一弦の琴　二弦の琴
—現代に伝わる和の響き—』
（解説書付き）
●制作協力／浜松市楽器博物館
●映像編集／デジタルセンセーション
株式会社
●発行／名古屋芸術大学

2015年度 音楽学部演奏会スケジュール（予定）

2月

第14回　歌曲の夕べ
日　時／2016年2月4日（木）18：30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

2015年度　研究生修了演奏会
日　時／2016年2月9日（火）18：00開演予定
会　場／電気文化会館　ザ・コンサートホール
入場料／無料（全自由席）

大学院音楽研究科特別演奏会
日　時／2016年2月12日（金）17：45開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料／無料（全自由席）

第20回　春のコンサート　ピアノのしらべ
日　時／2016年2月19日（金）17：30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第17回定期演奏会
日　時／2016年2月20日（土）14：00開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料／無料（全自由席）

カレードスコープ2016
日　時／2016年2月21日（日）16：00開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部2号館
大アンサンブル室
入場料／無料（全自由席）

オペラ公演
「あまんじゃくとうりこひめ」「子供と魔法」
日　時／2016年2月26日（金）18：30開演予定
会　場／西文化小劇場
入場料／500円

オペラ公演
「あまんじゃくとうりこひめ」「子供と魔法」
日　時／2016年2月27日（土）14：00開演予定
会　場／西文化小劇場
入場料／500円

3月

第18回　大学院音楽研究科修了演奏会
日　時／2016年3月3日（木）18：00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席）

ミュージカル公演
日　時／2016年3月4日（金）18：00開演予定
会　場／ アートピアホール
入場料／無料（全自由席）

第43回卒業演奏会
日　時／2016年3月10日（木）17：00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先／
名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
※オペラ公演については（株）クレアーレ
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。

チケットお取り扱い場所

●名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
●名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
●愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
●ヤマハミュージック東海名古屋支店
プレイガイド
Tel. 052-201-5152
●カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
※オペラ公演については（株）クレアーレ
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。

美術学部・デザイン学部卒業制作展・記念講演会 大学院美術研究科・デザイン研究科修了制作展

第20回 名古屋芸術大学 大学院修了制作展
日時／2月23日（火）～28日（日）
会場／名古屋市民ギャラリー矢田

第43回 名古屋芸術大学 卒業制作展
日時／3月1日（火）～3月6日（日）
会場／愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター８階）
名古屋市民ギャラリー矢田
アート＆デザインセンター（名古屋芸術大学西キャンパス）

卒業制作展記念講演会
日時／3月5日（土）14：00－16：00
会場／愛知芸術文化センター（12階アートスペースA）
講師／高橋源一郎（作家）

名古屋芸術大学2016年度入試日程
（試験日が2月以降の日程のみ掲載）

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
■音楽学部	3年編入試（後期）	1月 5日～ 1月22日	2月 6日	2月12日
	一般A日程　社会人・留学生入試	1月 5日～ 1月22日	2月5日・6日	2月12日
	一般B日程　社会人・留学生入試	2月12日～ 3月17日	3月25日	3月26日
■大学院音楽研究科	B日程入試	2月12日～ 3月17日	3月25日	3月26日
■研究生	研究生入試	2月12日～ 3月 3日	3月 8日	3月10日
■美術学部	A日程第一方式（センタープラス）	1月 8日～ 1月22日	2月 5日	2月 9日
	A日程第二方式（一般試験）	1月 8日～ 1月22日	2月 5日	2月 9日
	社会人・シニア・社会人3年編入入試	1月15日～ 1月29日	2月 9日	2月12日
	3年編入Ⅱ期入試	1月15日～ 1月29日	2月 9日	2月12日
	センター利用入試（前期）	1月18日～ 2月 1日	センター試験のみ	2月12日
	B日程第一方式（センタープラス）	2月18日～ 3月23日	3月25日	3月25日
	B日程第二方式（一般試験）	2月18日～ 3月23日	3月25日	3月25日
	センター利用入試（後期）	2月19日～ 3月18日	センター試験のみ	3月25日
■大学院美術研究科	Ⅱ期入試	1月20日～ 2月 3日	2月11日	2月19日
■研修生	研修生入試	1月20日～ 2月 3日	2月11日	2月19日
■研究生	研究生入試	2月29日～ 3月 7日	3月14日	3月16日
■デザイン学部	A日程第一方式（センタープラス）	1月 8日～ 1月22日	2月 5日・6日	2月 9日
	A日程第二方式（一般試験）	1月 8日～ 1月22日	2月 5日・6日	2月 9日
	社会人・社会人3年編入入試	1月15日～ 1月29日	2月 9日	2月12日
	3年編入Ⅱ期入試	1月15日～ 1月29日	2月 9日	2月12日
	センター利用入試（前期）	1月18日～ 2月 1日	センター試験のみ	2月12日
	B日程第一方式（センタープラス）	2月18日～ 3月23日	3月25日	3月25日
	B日程第二方式（一般試験）	2月18日～ 3月23日	3月25日	3月25日
	センター利用入試（後期）	2月19日～ 3月18日	センター試験のみ	3月25日
■大学院デザイン研究科	Ⅱ期入試	1月20日～ 2月 3日	2月11日	2月19日
■研修生	研修生入試	1月20日～ 2月 3日	2月11日	2月19日
■研究生	研究生入試	2月29日～ 3月 7日	3月14日	3月16日
■人間発達学部	大学入学資格審査入試	11月 9日～11月24日	12月2日書類、2月6日試験	2月10日
	一般A日程入試	1月 5日～ 1月28日	2月 5日・6日	2月10日
	センター前期入試	1月 5日～ 1月28日	センター試験のみ	2月10日
	一般B日程入試	2月12日～ 3月 3日	3月 9日	3月11日
	センター後期入試	2月12日～ 3月 3日	センター試験のみ	3月11日
	3年編入B日程入試	2月10日～ 3月 1日	3月 9日	3月11日
■大学院人間発達学研究科	三次入試	2月10日～ 3月 1日	3月 9日	3月11日
■研究生	研究生入試	2月12日～ 3月 3日	3月 8日	3月10日

※（注）各入試で実施されるコースや専攻の詳細及び指定校推薦など上記以外の入試については、学生募集要項を参照してください。

表紙の写真

「柔らかなカタチ」
ネックレス/silver
非常勤講師　寺本眞知子
「金属を柔らかく表現する」というコンセプトで創られているシリーズのネックレス。シートワックスを編み込んで原型を創り、鋳造で制作されているとのこと。華やかでボリューム感があるにもかかわらず、軽く仕上がっている。「アクセサリーは単なるオブジェなのではなく、実際に身に付けるもの」という言葉に納得。使う人のことがよく考えられている。

「名古屋芸大グループ通信」ウェブサイト

発　　行：名古屋芸術大学
企画・編集：全学広報誌編集委員会
デザイン・協力：くまな工房一社
印　　刷：㈱クイックス
発　行　日：2016年1月29日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0359
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED
2011. 4～2018. 3

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。